

社会情報学科 環境情報学専攻

教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー ……	138
1年間の履修登録単位数の上限 ……	138
標準履修単位数 ……	138
専門教育科目の履修について ……	139
卒業研究について ……	139
専門教育科目の卒業要件 ……	140
二級建築士資格 ……	142

社会情報学科 環境情報学専攻 教育研究上の目的

環境情報学専攻では、環境問題の発生から解決までを学び、総合的な視点を養うことのできる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

社会情報学科環境情報学専攻では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 環境創成学に関する知識と、それをもとに論理的に考え、的確な意思決定を行う能力。
2. 環境に関する課題に対し、総合的かつ確かな判断のできる問題解決力。
3. 持続可能な「環境づくり」へのとりくみを表現、発信するための情報技術及びコミュニケーション能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

社会情報学科環境情報学専攻では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

1. 基礎となる必修科目を中心にして、環境創成学に関する知識を習得します。
2. 持続可能な環境づくりや社会の実現にむけて、実習・演習・実験などを通して、実験的に学び、専門的な技術や文理融合の授業をもとに総合的な知識を身につけます。
3. 環境に関する課題に対し、基礎演習を出発点として3年次の少人数ゼミナールと卒業研究を通して、問題設定能力および情報の整理・活用を経て、問題解決力を養います。

1 1年間の履修登録単位数の上限

一度に多くの科目を履修すると自宅での予習・復習の学習時間を確保することができず学習効果を妨げてしまいますので、1年間に履修できる単位数の上限を定めています。

(2020年度入学生から適用)

	履修登録単位数の上限			
	1学年	2学年	3学年	4学年
社会情報学科 環境情報学専攻	42	46	46	46

※諸課程科目は、この単位に含まれません。

2 標準履修単位数

本学では、各学年において履修すべき単位の標準(目安)を定めています。卒業年次生は、標準履修単位数が卒業要件となりますので、注意してください。

配当学年により授業時間割が変動するため、標準履修単位数を超える場合や達しない場合があります。

社会情報学科 環境情報学専攻

(2020年度入学生から適用)

学年	全学共通			小計	学部共通		専門教育			小計	合計
	必修	選択必修	選択		必修	選択	必修	選択必修	選択		
1学年	5	12	0	17	8	2	6	0	8	24	41
2学年	11	12	11	34	8	4	10	0	24	46	80
3学年	11	12	11	34	8	6	14	4	44	76	110
4学年	11	12	11	34	8	6	24	4	48	90	124

3 専門教育科目の履修について

(1) 履修について

- ① 社会情報学部その他専攻の選択科目および専門特殊講義を履修し、修得した10単位までを、専門教育科目（選択）の卒業要件単位とすることができる。
- ② 「社会情報学ゼミナールⅠ・Ⅱ」及び「建築・都市ゼミナールⅠ・Ⅱ」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計50単位以上、「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」及び「卒業研究」は全学共通科目及び学部共通・専門教育科目で合計96単位以上修得し、かつ、第2年次までの必修科目の単位をすべて修得（編入学者は除く）していることを履修の条件とする。
- ③ 「力とかたちⅡ」は専門選択科目の「力とかたちⅠ」を同時に履修登録すること。

(2) 資格取得について

- ① ☆印は二級建築士・木造建築士試験指定科目。所定の単位を修得すれば、同資格の受験資格が得られます。同資格の受験資格取得希望者は「6 二級建築士資格」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。
- ② 教員免許状取得希望者は「③ 諸課程について 1 教職課程」の項を熟読し、単位の修得に十分注意すること。

(3) 留学認定科目について

- ① 「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しようとする者は、大妻女子大学が行っている海外留学・研修プログラム等に参加し、一定以上の成績を修めること。

4 卒業研究について

- (1) 環境情報学専攻の学生が卒業するためには、「卒業研究」を提出しなければならない。
- (2) 「卒業研究」を履修するための条件は以下のとおりとする。
 - ① 3年以上在学していること（編入学者は除く）。
 - ② 全学共通科目、学部共通科目及び専門教育科目を合わせて96単位以上修得していること。
 - ③ 編入学者を除き、第2年次までの必修科目の単位をすべて修得していること。
 - ④ 原則として、指導教員の担当する「社会情報学ゼミナールⅢ・Ⅳ」（第4年次）を履修すること。
- (3) 「卒業研究」を履修登録する時期は以下のとおりとする。
 - ① 「卒業研究」は所定の期間に履修登録するものとする。
- (4) 「卒業研究」の審査については以下のとおりとする。
 - ① 「卒業研究」は、所定の提出期間内に所定の場所に提出し、審査を受けなければならない。（期間・提出先はその都度掲示する。）
 - ② 卒業研究再履修者で前期履修登録期間に「卒業研究」を登録して履修した者は、指導教員の許可を得た上で、所定の提出期間内に「卒業研究」を提出し、審査を受けることができる。（期間は別途連絡する。）
 - ③ 「卒業研究」の審査は、原則として、2名以上の専任教員が行う。
なお、「卒業研究」の詳細については別に指示する。

5 専門教育科目の卒業要件

社会情報学科 環境情報学専攻

(2020年度入学生から適用)

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数			先修条件	資格科目	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択			
学部 共通 科目	必修	コンピュータの基礎	1	半期	講義	2				(8)
		情報処理実習A	1	半期②	実習	2				
		情報処理実習B	1	半期②	実習	2				
		基礎社会学	1	半期	講義	2				
	選択	基礎統計学	1	半期	講義・演習			2		(6)
		ソフトウェア概論	1	半期	講義			2		
		現代経済学	1	半期	講義			2		
		情報基礎数学	1・2	半期	講義			2		
		社会情報概論	2	半期	講義			2		
		情報社会論	2	半期	講義			2		
		コミュニケーション論	2	半期	講義			2		
		情報倫理	2・3	半期	講義			2		
		社会政策・労働問題	2・3	半期	講義			2		
		情報セキュリティ論	2・3	半期	講義			2		
専門 教育 科目	必修	環境情報学基礎演習	1	半期	演習	2				(24)
		環境学入門	1	半期	講義	2				
		エコライフ論	1	半期	講義	2				
		プログラミングの基礎	2	半期	講義・演習	2				
		プログラミング基礎演習	2	半期	講義・演習	2				
		環境情報処理論及び実習Ⅰ	3	半期	講義・実習	2				
		環境情報処理論及び実習Ⅱ	3	半期	講義・実習	2				
	選択必修	社会情報学ゼミナールⅢ	4	半期	演習	2		履修について②参照		(4)
		社会情報学ゼミナールⅣ	4	半期	演習	2		履修について②参照		
		卒業研究	4	半期	—	6		履修について②参照		
		社会情報学ゼミナールⅠ	3	半期	演習		2	履修について②参照	☆	
		建築・都市ゼミナールⅠ	3	半期	演習		2	履修について②参照	☆	
		社会情報学ゼミナールⅡ	3	半期	演習		2	履修について②参照	☆	
		建築・都市ゼミナールⅡ	3	半期	演習		2	履修について②参照	☆	
人間と環境 住居のデザイン	人間と環境	生命のしくみ	2	半期	講義		2			(4)
		環境科学	2	半期	講義		2			
		地球環境論	2	半期	講義		2			
		住居環境論	2	半期	講義		2		☆	
		生命科学と暮らし	3	半期	講義		2			
		食と環境	3	半期	講義		2			
		健康と環境	3	半期	講義		2			
		環境演習Ⅰ	3	半期②	講義・演習		2			
		環境演習Ⅱ	3	半期②	講義・演習		2		☆	
		特殊講義Ⅱ(暮らしと環境)	3	半期	講義		2		☆	
	住居のデザイン	住居学	1	半期	講義		2		☆	
		設計製図の基礎	2	半期②	演習		2		☆	
		住居デザイン演習Ⅰ	2	半期②	演習		2	設計製図の基礎	☆	
		住居デザイン演習Ⅱ	3	半期②	演習		2	設計製図の基礎・住居デザイン演習Ⅰ	☆	
		住居デザイン	2	半期	講義		2	住居学	☆	
		力とかたちⅠ	2	半期	講義		2	物理の基礎Ⅰ	☆	
		力とかたちⅡ	2	半期	講義		2	履修について③参照	☆	
建築と都市の歴史	2	半期	講義		2		☆			
建築と社会	2	半期	講義		2		☆			
建築インテリア材料	3	半期	講義		2		☆			
建築法規と都市デザイン	3	半期	講義		2		☆			

区分	授業科目名	配当年次	期間	講義・演習等の別	単位数			先修条件	資格科目	卒業に必要な単位数
					必修	選択必修	選択			
専門教育科目	持続的な暮らしと社会	環境と経済Ⅰ	2・3	半期	講義			2		
		環境と経済Ⅱ	3・4	半期	講義			2		
		環境と法律Ⅰ	2・3	半期	講義			2		
		環境と法律Ⅱ	3・4	半期	講義			2		
		環境と経営	2・3	半期	講義			2		
		環境マネジメント論	3	半期	講義			2		
		特殊講義Ⅰ(社会と環境)	3	半期	講義			2		
		環境とアグリビジネス	3・4	半期	講義			2		
		環境とマーケティング	3・4	半期	講義			2		
		エネルギーと環境	3・4	半期	講義			2		
	環境との共生	環境デザイン論	1	半期	講義			2		☆
		環境保護論	2	半期	講義			2		
		環境アセスメント論	2	半期	講義			2		☆
		エコロジーⅠ	2	半期	講義			2		
		エコロジーⅡ	2	半期	講義			2		
		環境生態デザイン	3	半期	講義			2		☆
		フィールドワークA	3	半期	実習			1		
		フィールドワークB	3	半期	実習			1		
		ビオトープ論	3	半期	講義			2		☆
		建築デザイン	3	半期	講義			2		☆
		環境教育	3	半期	講義			2		
		環境とツーリズム	3	半期	講義			2		
		環境とまちづくり	3	半期	講義			2		☆
	(教職課程認定者以外も履修可能)	国際関係と環境法	3・4	半期	講義			2		
		生物の基礎Ⅰ	1	半期	講義			2		
		生物の基礎Ⅱ	1	半期	講義			2		
		物理の基礎Ⅰ	1	半期	講義			2		
		物理の基礎Ⅱ	1	半期	講義			2		
		化学の基礎Ⅰ	1	半期	講義			2		
		化学の基礎Ⅱ	2	半期	講義			2		
		地学の基礎Ⅰ	2	半期	講義			2		
		地学の基礎Ⅱ	2	半期	講義			2		
		物理基礎実験	2	半期②	実験			2		
化学基礎実験	2	半期②	実験			2				
生物基礎実験	3	半期②	実験			2				
地学基礎実験	3	半期②	実験			2				
科目認定	異文化理解Ⅰ	1・2・3・4	—	—			2			
	異文化理解Ⅱ	1・2・3・4	—	—			2			

(48)

注(1) この表は社会情報学科環境情報学専攻の専門教育科目に関する規定であって、全学共通科目については全学共通科目の項による。

注(2) 各科目の配当年次は、変更になることがあるので、授業時間割等で確認すること。

6 二級建築士資格

二級建築士について

二級建築士は、都道府県知事の免許を受けて、一定規模以下の木造の建築物、および鉄筋コンクリート造などの主に日常生活に最低限必要な建築物（延べ床面積 300㎡以内のもの）の設計、工事監理等の業務を行う者を認定する国家資格です（建築士法第2条第3項）。

受験資格を取得できる学科・専攻

社会情報学科 環境情報学専攻

資格取得方法について

二級建築士受験資格取得に必要な科目を修得して卒業し、卒業後に二級建築士試験（学科の試験、設計製図の試験の両方）に合格する必要があります。

所定の単位（カテゴリーごとの必要最低単位 10 単位を含む 40 単位）を修得すれば、卒業後、実務経験がなくても二級建築士試験の受験及び免許登録ができます。なお、単位の修得状況（カテゴリーごとの必要最低単位 10 単位を含む 20 ～ 39 単位）の場合、実務経験が課されます。

要件を満たした場合は、受験資格を取得したことを証明する「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」が卒業時に発行されます。

二級建築士受験資格取得に必要な科目、単位数

(2020 年度入学生から適用)

国土交通大臣による指定科目の分類等		左記に対応する本学開設科目及び単位数	
分類毎の指定科目	最低修得単位数	本学開設科目	単位数
A 建築設計製図	3	設計製図の基礎	2
		住居デザイン演習Ⅰ	2
		住居デザイン演習Ⅱ	2
B 建築計画、建築環境工学又は建築設備	2	住居学	2
		住居デザイン	2
		建築デザイン	2
		住居環境論	2
		特殊講義Ⅱ（くらしと環境）	2
C 構造力学、建築一般構造又は建築材料	3	力とかたちⅠ	2
		力とかたちⅡ	2
		建築インテリア材料	2
D 建築生産	1	建築と社会	2
E 建築法規	1	建築法規と都市デザイン	2
F その他		環境デザイン論	2
		環境アセスメント論	2
		建築と都市の歴史	2
		環境とまちづくり	2
		環境演習Ⅱ	2
		環境生態デザイン	2
		ビオトープ論	2
		建築・都市ゼミナールⅠ	2
建築・都市ゼミナールⅡ	2		
A～Eの合計		10	26
A～Fの合計		40	44

注(1)「最低修得単位数」は卒業後、実務経験年数0年で受験資格を取得するために、各分類毎に定められた最低限必要な単位数

その他

- ・単位の修得状況に応じて、卒業後、実務経験年数が1年又は2年必要となる場合があります。
- ・先修条件などに注意して、履修計画を立ててください。
- ・詳細は掲示や専攻で実施するガイダンスなどで必ず確認してください。特に履修に関することについては変更になることがあるので、掲示など常に確認してください。